新人事制度が議論の中心に

～中四国・九州地連　女性協定期大会～

女性協議会

中四国地連

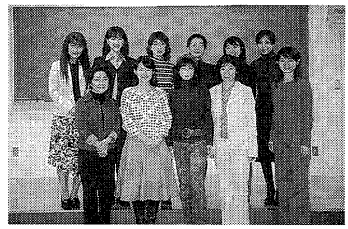
中四国地連女性協議会定期大会が10月18、19日に六単組の出席で行われた。

大会は新人事制度に関する話が中心となり、現状を聞く中、決して、この制度が会社を良くするものでも仕事をしやすくするものでもないことが確認された。特に、産休・育休・育児時短などの休みをとれば「休む＝成果をあげない」という図式で査定され、女性にとっては不利な状況となる。制度が入っていないところは、会社が導入しないようにすることが大切だと確信した。以下、各局の現状をまとめた。

【広島ホームテレビ労組】

今春、新人事制度導入を決定した。一年目（2003年度）は「評価を勉強」、二年目は「査定はするが、給料に影響せず」、三年目は「給料に影響」となっている。ただし、一年目からボーナスの査定はある。7月にチャレンジシートを提出し、9月末、上期の自己評価を行った。10月中旬には上司との面接を終了した。

人事に関する自己申告書（人事異動希望）の提出時期が早まり、その提出時期にチャレンジシートを書くという状況になった。異動になってからのチャレンジ目標と、異動前の部署での目標は、内容が異なるので、この状況はいかがなものか。自己評価は「0・1・2・3・5」の中から選ぶことになっている。なぜ「4」がないか人事に問い合わせたところ「4をつける人が殆どになると判断。そうなると、評価しづらくなるため」という返答だった。この制度導入でよかったことは、上司が声をかけてきて、部下の仕事内容を把握・理解するようになったこと。



大会に出席したみなさん

【愛媛放送労組】

毎年、春に目標を決め、コミュニケーションシート（目標設定書）を提出する。これは、部長が年俸制なので、部長にのみ反映されている。人事異動で部長が替わると目標が変わり、やり直しに。

【テレビ新広島労組】

役員を二年で一一人から七人に削減する。役員退職金慰労制度があり、退職金に備えて、人事が貯めているらしい。

＊　＊　＊

◆2003年度役員◆

議　長　桑原　しおり（中国放送労組）
副議長　剛家　和香子（広島ホームテレビ労組）
書記長　千葉　和子（広島テレビ労組）
財　政　城本　寿美（テレビ新広島労組）

九州地連

九州地連女性協は、「第三〇回」という節目にあたる定期大会を、去る10月19日に福岡KBC会館にて開催いたしました。

議案書を読めば内容はわかるので議案の提案は手短に行い、2002年度の活動として実施したメンタルヘルスのアンケートの分析結果の説明を含め午前中で終わらせて、午後からは各単組の状況報告の時間にしました。

必然的に今回の議案書に新たな項目として加わった「成果主義、新人事・賃金制度」の進捗状況を中心に、人員不足の中の過酷な労働、派遣など雇用形態の問題、組合員の構成年齢や組織率、会社からの組合攻撃など様々な意見を聞くことができました。共通して言えるのは、みんなが一生懸命働いていること、その中での問題点をわかっていながらも、運動という取り組みにまで手がまわらない状況、もしくは、半ばあきらめの状況があるのだと感じました。だからこそ、友達感覚で、気軽に相談できる女性協という組織をもっと活用してほしいと訴えました。

2003年度の第一の取り組みは、「産休がいまだ無給の単組を有給化すること」です。また、すでに育児休業、時短も含めて制度は確立していても、人員不足で取得しづらい雰囲気の職場があります。こういった制度の運用の問題も大きいですが、まずは「産休の有給化」が、女性が働く上では最低限必要であると考えます。この取り組みは社歴の短い組合員の方にも理解しやすい内容ですので、九州地連との連動も図りながら運動にし、議案書の資料のページの表に「無給」の文字が消えるよう努力していきます。そして、成果主義、新人事・賃金制度についても女性が犠牲になっていないかを含めて引き続き実態調査に努めていきます。

女性協をもっと活用して下さい